グラウンドワーク三島
ボランタリーニュース
Ｎｏ.57　2015 年（平成 27 年９月 30 日発行）

発行　特定非営利活動法人グラウンドワーク三島
〒411-0857　静岡県三島市芝本町 7－11
TEL 055(983)0136　FAX 055(973)0022
URL http://www.gwmishima.jp/
E-mail：info@gwmishima.jp

グラウンドワークとは・・・・・・・
市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたもぜひ活動にご参加ください。
（文中グラウンドワークをGWと表記することがあります。）

平成 27 年度・通常総会・ネパール大地震支援活動報告会

6 月 20 日、平成 27 年度ＧＷ三島通常総会及びネパール大地震支援活動報告会が、三島商工会議所ＴＭＯホールで開催された。

★平成 27 年度通常総会

議長を小松幸子理事長が務め、渡辺豊博専務理事･事務局長が映像を示して説明。(司会:越沼正理事)

平成 26 年度事業報告及び活動計算書は、原案通り承認された。

■事業実施の方針：「ビジネスの強化・ＮＰＯの経済的基盤づくりに向けた体制整備」。

■主要事業

1「三島梅花藻の里」「泉トラスト運動」に署名、募金による買収の実現。
2「松毛川千年の森トラスト運動」で右岸三島市側 1.5km の放置竹林伐採整備が完了。
3「境川・清住緑地・大湧水公園化」の実現へのアプローチ。
4「環境出前講座」2,211 人が参加。39 講座 23 校で開講。

平成 27 年度事業計画及び活動予算書も、原案通り承認された。

■事業実施の方針：「国際的な活動展開と新たな魅力作り、持続可能な運営の取り組み」。

■主要事業

1 三島梅花藻の里、御殿川、四ノ宮川、源兵衛川、佐野美術館､隆泉苑エリアを水と文化ゾーンとする「水の里構想」の策定と水源地の整備。
2 松毛川治水対策の事業化実現と河畔林の買収。
3「境川・清住緑地・大湧水公園化」の三島市側湧水池の買収と全体整備構想の策定。
4 国際的活動の展開：ネパール大地震支援活動（バイオトイレ設置、人材交流)。「英国ＧＷトラスト」との交流事業。

★ネパール大地震支援活動報告会

5 月 30 日～6 月 3 日に支援活動のために訪問したネパールの大地震の様子を、渡辺豊博専務理事が報告。カトマンズ市内の被害状況調査、農村地帯での食料品･医療品の配布と災害用バイオトイレ3基の設置、小学校での文房具等の配布の報告があった。

また、カトマンズ市内・王宮近くの 3,000 人が居住する避難所では仮設トイレが 1 カ所しかなく、感染症の拡大や水質汚染の深刻化が懸念されるので、今後も災害用バイオトイレの設置を目標に支援活動を継続していく。更にバイオトイレの管理者やネパールの環境再生活動の担い手育成を目的に、国立トリプパン大学、ナーヤアーヤム総合大学と協定を結び（上写真)、ネパールの大学生が三島で研修を受ける「若者人材育成交流事業」も実践する。

市民普請大賞 全国交流会議 2015
テーマ：「市民普請力」で地域を創る！

左より豊岡武士三島市長、桑子敏雄選考委員長、廣瀬典明土木学会長、小松幸子理事長、渡辺豊博専務理事

8 月 22 日～23 日､「市民普請大賞　全国交流会議 2015」(主催：公益社団法人土木学会、共催：ＮＰＯ法人グラウンドワーク三島ほか、後援：三島市）が開催された。

湧水量豊富な源兵衛川に感激しながらの現地視察の途中、上流域河畔で、ＧＷ三島の市民普請大賞「グランプリ」受賞を記念して制作された溶岩石碑の除幕式を行った。

その後、現地視察は「松毛川千年の森づくりプロジェクト」の現場にバス 2 台で移動し、皆、暑さの中、熱心に視察した。

左より桑子敏雄（東京工業大学大学院教授）コーディネーター、石田東生コメンテーター、パネリストの大槻駿宮津高校建築科 3 年生と小谷保雄教諭、福林良典ＮＰＯ法人道普請人理事、渡辺豊博専務理事、廣瀬典昭土木学会会長

後半は、日本大学国際関係学部三島駅北口校舎で、セレモニー､基調講演(石田東生筑波大学大学院教授)､成果発表（3 団体)､パネルディスカッションと続いた。渡辺豊博専務理事の「人が関われば関わるほど温かさが生まれる。それこそ市民普請である」は、翌日の分科会等でも多くの人々の発言に影響を与えたようだった。2 日目の事例報告は、神奈川県や福島県での取り組みも発表され、意欲的な若者の発言は頼もしく、今後の展開が期待される全国交流会議となった。交流会では、各地の名産品も提供され、夢ある和やかな会話が弾んだ。富士山からの豊富で澄んだ湧水を体感してもらった。時代を拓く「市民普請」にスポットがあてられた。

ＧＷ三島の 3 号店**「せせらぎ源兵衛」**に「まいう～！」で有名な石塚英彦が日本テレビ系列の「メレンゲの気持ち」で取材に。

ＧＷ三島の後藤晃一スタッフが対応した。

全国放映
9 月 19 日（土）

ホストファミリーのみなさま、ありがとう！

ネパール大地震被災地からの子供たち

7月15～18日、大地震のあったネパールから、被災した11～12歳の子供たちと引率者が来訪。ホームステイも体験し、ＧＷ三島の様々な活動に参加。

佐野小学校や「みどりのふれあいの園」の町内子供会、しゃぎりの団体等、多くの市民の協力があって、楽しい交流の毎日だった。

市長表敬訪問やＦＭラジオ出演の時、どの子も日本語で自己紹介をし、英語で夢を語り、ネパール復興への意気込みが感じられた。

日韓青少年市民交流の韓国の高校生・大学生

韓国からの高校生・大学生は、8月7～10日、ＧＷ三島の東北事務所がある宮城県石巻市で、教育、産業、環境の復興に関わる被災地の活動とまちづくりの手法を学んだ。

10～13日は三島市に移動。ホームステイを体験し、その後、ＧＷ三島の実践地でのフィールドワークや農業体験等幅広く学び、意見交換会でも大いに力を発揮した。しゃぎり等日本の伝統芸能にもふれた。この滞在が9月1～4日の訪韓学生の交流成果につながった。

平成27年度「鎮守の森探検隊」第①～⑥

14年目を迎えた本事業、今年のテーマは「ふるさとの森と川の魅力を五感で実感」。専門家とともに三島市内や富士山・伊豆地域を巡り、自然観察を行いながら環境保全について学んだ。（全10回）

第1回：6/27「光を灯して、夜の虫の観察会」
第2回：7/11「森と川の生態系を学ぼう」
第3回：7/28午前「源兵衛川ミニミュージアム　川の中の生き物」
第4回：7/28午後「源兵衛川ミニミュージアム　野鳥と植物」
第5回：8/12「調べてみよう！源兵衛川の宝物の生き物」
第6回：9/19「みんなで探そう！富士五湖のほとりで湿原の動物観察」

イオンチアーズクラブ自然観察会

7月18日、イオンチアーズクラブの小・中学生は、三島梅花藻の里や源兵衛川で自然観察会を行った。

山口東司インストラクターからミシマバイカモの由来や特徴について聞き、湧水の水温測定をして15℃前後であることを確認。冬暖かく夏冷たい理由を知った。その後源兵衛川中流域に移動し、山口さんの指導でミシマバイカモの手入れが体験でき、大喜びした。

また、渡辺忍インストラクターからは、源兵衛川の成り立ちを聞いた。次に眼鏡橋を見学し接着材を使わずに組み立てる工法を学んだ。さらに三島溶岩が建築材として利用されていることや、火山礫が水を浄化するために川底に敷かれている様子も見学。三島の人の知恵を学んだ。最後に、『せせらぎ水族館』で、ＧＷ三島のスタッフ村上茂之さんより生き物の詳しい説明を受けた。

東日本大震災支援活動「子どもを元気に富士山プロジェクト」第16回心を元気にするショートツアー
「宮城県南三陸町の獅子舞と三島市のしゃぎりで郷土芸能交流　世界文化遺産富士山　水辺の自然体験塾

9月20～22日、南三陸町の一行（代表：阿部洋氏）が三島を訪れ、三嶋大社正式参拝後、獅子舞と三島のしゃぎりで交流。4歳から中3までの13人を含む一行は、滞在中、富士山、源兵衛川、三津シーパラダイス等を訪れ、元気を取り戻した。

三嶋大社護持と民心の安定に捧げた生涯

第 66 代三嶋大社神主　矢田部式部盛治（もりはる）

文政 7（1824）年 3 月 3 日、掛川藩主・太田摂津守家老橋爪弥一右衛門の 3 男として生まれる。幼名岩吉。幼い頃より藩校徳造書院に学び、国学と算術と武術に励む。しばしば非凡な才能で人々を驚かせたが、特に槍術は宝蔵院流十文字槍に秀で、藩内の若者で彼の右に出る者はないとまでいわれた。

天保 14（1843）年、19 歳の時、三嶋神社神主、矢田部伊織盛正の養子となり、名を式部盛治と改めた。嘉永 3（1850）年、26 歳で三嶋大社神主となる。そのわずか 4 年後の安政元（1854）年、東海大地震（安政地震）が起こり、三嶋大社は神殿を始め 30 有余の建造物が悉く倒壊した。盛治は早速幕府に造営を請い、募財のため東奔西走したが内憂外患の当時の情勢下、それは困難を極めた。しかし、盛治はいたずらに焦ることなく、粘り強く再建に向かった。神主、社家、三島宿民一丸となっての悲願達成への努力がついに実を結び、着工から 13 年の歳月を費やし、明治 2（1869）年、新社殿が竣工した。それは街道筋に類を見ないほどの立派で勇壮なものであった。

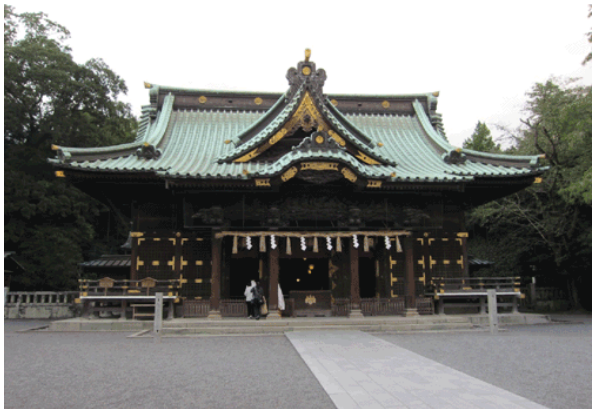
盛治は救世愛民を主義とし、震災風水害の度毎に救済事業に力を入れた。物価の暴騰甚だしく世相騒然となった慶応元（1865）年 6 月、三島宿で米屋数軒が打ち壊されるという事件が起こった。この時盛治は破格の値段で米を売り窮民の救済にあたったことは、今なお古老の語り草となっている。

明治元（1868）年、官軍東征の折には、遠州に報国隊、駿河に赤心隊という神官を中心とする盟約がなされた。盛治はこれに呼応して伊豆の神官約 70 人を結集し伊豆伊吹隊を結成。自らその盟主となり、明治天皇東行を護衛し、人心の安定に力を尽くした。このため三島宿は騒乱の兵火を免れることができた。

一方、盛治は、三嶋大社北東に位置する祇園原一帯の開発にも注目し、農民の長年の念願であった沢地川から水路をひき、10 町歩に及ぶ水田開発に成功した。明治 2（1869）年 2 月、村民総出の工事が始まり、盛治は陣頭指揮に立った。長さ 250mの掘り抜きトンネルを含め、全長およそ 500mの掘割用水路はわずか 4 カ月間で完成した。特筆すべきはこの工事にかかる費用は全て矢田部家で立て替えられたことである。死の直前、盛治は息子の盛次を枕元に呼び、「祇園原用水の工事費は、全部矢田部家で返すために、生活を切り詰めてやってきた。盛次、お前もどのような苦労をしてでも残りの金をしっかり返してくれ」と言い残したという。盛次は父の遺志を受け継ぎ、正月に餅もつけないほど貧乏になっても、借りたお金を返すために努力して、とうとう全額返した。この盛治の生き方に心打たれた人々は、「お殿様」と敬い親しみ、約 100 年後、三嶋大社境内に「矢田部式部盛治像」を建立した。

明治 4（1871）年、三嶋大社は*官幣大社に指定される。この朗報に接したのも束の間、同年 9 月 14 日、死去。享年 47。波乱に満ちた時局下、絶えず民心の安定に心を配り、大社造営の悲願を達成した盛治は、新政府からの度々の招致にも拘わらず、三嶋大社護持に全生命を捧げた。

＊官幣大社　社格のひとつ。大社、中社、小社、別格官幣社の別がある。明治以後は宮内省から幣帛（へいはく・神に供える麻布の称）を供進した神社をいう。主として皇室尊崇の神社および天皇、皇親、功臣を祀る神社。第 2 次大戦後この制度は廃止された。



出典：
『三島市誌・中巻』　　『群像いず』永岡 治著（静岡新聞社発行）
『矢田部式部盛治』伊藤三千夫著（矢田部盛治大人偉業顕彰会発行）
『郷土につくした人々２　大空にかけるゆめ』（静岡教育出版社発行）

明日につながる教育支援

「ネパールの貧困児童を救う会」代表　福井 善徳さん

昭和8(1933)年京都生まれ。6人兄弟の次男。家庭の事情で福井家の養子になった。12歳で終戦。中学3年の時、働きながら学ぶ道を選び、東洋レーヨン株式会社に就職。夜間高校、立命館大学夜間部を経て、京都繊維工芸大学で学ぶ機会も得たという。28歳で結婚、2児の父になり、大切な家族のために働いた。37歳の時、東レ三島工場に転勤。45歳で東レを退職。三島で居酒屋を開店し15年間続けた。「子供のころから身体が弱く60歳くらいまでの寿命だと思っていた。これからは世の中に恩返しをしよう」と思い、居酒屋を閉店。

2014年 バネパの学校で援助児童たちと

その後、妻の会社の社員旅行に同行し、海外旅行に魅了された。英会話と旅行業者資格取得のため、熱海観光専門学校に通い、国内旅行業務取扱管理者の資格を取得した。多くの国を訪れ、特にニュージーランドは9回、ネパールは17回も訪れている。ニュージーランドではトンガ人の石の彫刻家と知り合い、毎回1カ月近く滞在。英語力が身に付いた。

ネパールとの出会いは平成9(1997)年、山手線の車中で若い夫婦に声をかけたことから始まった。極真空手の元ネパールチャンピオンのダマン・バスネット夫妻だった。2年後、ダマンさんが商用で来日し福井氏宅に1泊した際、彼が友人たちと自費でカトマンズ市内のホームレスの子供たちの面倒を見ていることを知った。翌、平成12(2000)年、ホームレスの子供たちの実態調査と対策を検討するためネパールに出かけた。ホームレスの子供はたくさんいたが、善を積むヒンズー教の教えにより、飢え死にする子供はいない。向学心旺盛で、明るく、精一杯生きている子供たちにとって必要なのは教育だと考え、教育に関する支援事業を始めた。

2003年 援助の貧困孤児やダマンさんと

平成15（2003）年、現地でボールペン2,000本、ノート2,000冊を製造し、日本から持参した文房具とともに、シンドパールチョーク地区の子供たちに配布した。また、貧困孤児2名の教育費を援助、寄宿生として入学させた。孤児たちを学校に入れて教育を受けさせたいという夢が実現し、小さな一歩が踏み出せた。以後、毎回、文房具と学費の支援を続けている。寄宿生への援助も続け、支援児童は現在12名になった。平成18（2006）年、カトマンズに日本語学校を設立し、自身も校長になった。日本語学校設立は、ネパールを訪問した時からの夢であり、日本との交流を通してネパールの国力の発展と国民生活向上に貢献したいと願っていただけに喜びはひとしおだった。しかし、政情不安のため閉鎖せざるを得ず、永年の夢が頓挫。残念でたまらなかったが、ネパール民主化の実現を心から願った。

平成21（2009）年、寄宿生をシンドパールチョーク地区の小学校から、教育レベルの高いバネパの学校に転校させた。女性の自立支援事業や車椅子の寄贈など支援の輪を広げ、平成22（2010）年、空手胴着をプレゼント。平成23、24、26年も訪れ、支援児童に会い、成長した姿に感激。自宅通学児への教育費援助事業も始めた。

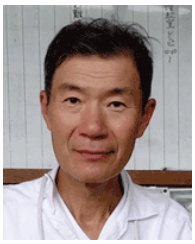
女性の自立支援事業も開始

平成27（2015）年4月ネパール大地震の報を聞き、すぐ支援金を送った。チャリティコンサートの収益金や福井さんが制作した三島茶碗の売上金も送る予定。

「ネパールは何度訪れても、文化、宗教、習慣など驚きにあふれ、魅力的な国である。家族は心配しているが、健康なら85歳までは現地に行きたいし、命ある限り支援事業を継続していきたいと思っている。訪問してから15年、ネパールへの愛情と友情はますます深まり、その発展を心から祈願している」と熱い思いを語った。

「ネパール国内には数多くのＮＧＯ団体があるが、ほとんどが営利目的であり、寄付金などは末端貧困層までは届かない。わずかな援助金は焼け石に水で、むしろ、他国への依頼心を増すだけだ」という、現状を見据えたうえでの福井さんの支援活動は、未来に繋がる確かな支援であり、これこそ真の国際交流、国際貢献だと実感した。

趣味：陶芸、英会話、海外旅行、読書、ＣＧ、腹話術　　生活信条：すべてのストレスから無縁の生活を送ること



私を変えたグラウンドワーク三島

「シニア元気工房」メンバー
下郷（しもざと） 宰（おさむ） さん

昭和22（1947）年、愛知県知多半島の大井漁村に生まれた。小学校から大学まで名古屋で育ち、卒業後、横浜の企業に就職。仕事仕事の毎日だった。

湘南から函南に引っ越して5年。全く仕事と縁が切れ、さてこれから何をしようかという状態だった。そこにGW三島のボランティア活動の新聞折り込み案内があった。奥さんの勧めもあり、「三島梅花藻の里」の世話と、シニア元気工房の活動に参加することになった。諸先輩の指導を受け、ボランティア活動の喜びを知った。

活動に参加した年の年末、初めて「そば打ち」というものをやることになった。1回ぐらいでは難しくて何も覚えられなかった。翌年4月、函南の生涯学習塾で「そば打ち教室」があることを知って申し込み、1年間教えてもらえる機会を得た。今では「おそば屋さん」と呼ばれるようになってしまった。南箱根ダイヤランドでランチとそばの店を開業。お客さんとの触れ合いを大切にしたいので1日1組の予約制でやっている。

GW三島のそばの種まきから収穫、製粉までの一連の作業を経験し、自分なりに更に知識、技能を深めたことが、人生を大きく変えることになった。

生涯学習の先生が、伊豆長岡で種々のボランティア活動を実践しており、そちらにも参加するようになった。今現在、一番はまっているのがコーヒーの焙煎。そば同様、コーヒーもとても奥が深く、興味は尽きない。

現在、シニア元気工房の一員として、竹や廃材を利用した三島の工芸品（トンボや竹あかりなど）作りに精を出している。これからも、GW三島のいろいろな活動に出来るだけ参加して、人間の幅を更に広げられたら幸せだと思っている。

趣味はゴルフ。好きな言葉は「思いやり」。

未来につなぐ ボランティア

三島市立南中学校3年生　生徒会長
白井（しらい） 帆香（ほのか） さん

7月13日、三島市立南中学校生徒会役員8名が、GW三島へネパール大地震支援の募金を届けに来てくれた。

同校生徒会は代々募金活動に積極的で、フィリピン台風や広島県豪雨災害の募金を日本赤十字社に寄付している。5月に3日間、役員が登校時に呼び掛け、30,154円が集まった。「地震は他人事ではない災害。募金は、被災者のために中学生として出来ることの1つだと思う。今回、募金先をGW三島に決めた理由は、使途がバイオトイレ設置と具体的で、直接手渡すことができるから」と話す。

▼思いが込められたずっしり重い募金の袋を小松幸子理事長に手渡す生徒会役員のみなさんと、ネパール大地震支援活動に行っての最新情報を伝えたGW三島スタッフのスプリチャル修平ルイスさん

その他、リサイクル回収など、全校をあげてのボランティア活動が盛んである。

「第10回心を元気にするショートツアー」がGW三島との初めての出会いだった。数年前に、みしまプラザホテルで行われた「石巻少年少女合唱隊を励ますコンサート」に三島少年少女合唱隊の一員として参加し、食事会やビンゴ大会も楽しんだ。その時に出会った石巻の子と今でも文通しているという。

夏休みには「三島－パサディナ青少年交流 フレンドシップ 2015」に参加し、アメリカのパサディナ市で一週間ホームステイをした。昨年、来島したパサディナ市の学生と交流したときに、自分も行ってみたいと強く思ったそうだ。「英語の力を付け、記者になりたい」と話す。

担任の木下佳彦先生は、「彼女はぐいぐいと引っ張って行くというより、自然にみんながついて行くようなタイプ」と語る。

趣味はピアノ。吹奏楽部ではクラリネットを担当。

パッション No. 23

地域を支える「水」を学ぶ
三島北高スーパーグローバルハイスクール（SGH）の取組み

三島北高校は現在、文部科学省から5年間SGHの指定を受け、将来のグローバルリーダーを養成するためのカリキュラム開発に取り組んでいる。その一環として、指定2年目の本年度から1年生全員を対象に新たな授業「LWI（Local Water Issues＝地域の水問題）」をスタートさせた。LWIでは、生徒自ら地域の水に関するテーマを設定して研究に取り組み、その成果を英文によるポスターセッション（三北ウォーターフォーラム）で発表する。

さる7月23日にはテーマについて生徒が専門家に直接質問をする「三北ウォーターフォーラム準備セッション」を開催。セッションではグラウンドワーク三島の加須屋真様、加藤正之様をはじめとする13名の水問題に関する各分野の専門家が集まり、生徒の質問に熱心に答えていただいた。夏休みにはお2人の話に触発され、グラウンドワーク三島のイベントにも数多くの生徒が参加。水問題を身をもって感じる貴重な機会をいただいた。

グラウンドワーク三島には今後も引き続き本校SGHの支援をお願いしたい。併せて、11月14日の三北ウォーターフォーラムには是非多くの方々に生徒の発表を聞きに来校いただきたい。　　三島北高等学校教頭　柴 雅房

＊SGHプロジェクトとは、平成26年度から始まった文部科学省の事業。生徒の社会課題に対する関心と教養を深め、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際舞台で活躍できるグローバルリーダーの育成を図ることが目的。平成26年度指定校として56校を決定（内訳：国立7校、公立31校、私立18校）。

GW三島の活動記録 2015年6月1日ー2015年9月30日

月	日	曜	事業名	内容	場所	人数
6	13	土	せせらぎシニア元気工房	竹あかりイベント(ホタル祭り共催)	楽寿園正門	12
	20	土	平成27年度通常総会	総会、ネパール大地震支援報告会	三島商工会議所 TMOホール	110
	21	日	源兵衛川ふるさとの川づくり	源兵衛川下流部環境再生ﾜﾝﾃﾞｲﾁｬﾚﾝｼﾞ	源兵衛川 第7ｿﾞｰﾝ	21
	27	土	イオンチアーズ	自然観察会	三嶋大社、白滝公園、楽寿園	20
			境川・清住緑地	境川・清住緑地ワンデイチャレンジ	境川・清住緑地	61
			鎮守の森探検隊①	夜の昆虫観察	三島市山田川	50
7	5	日	トヨタ自動車労働組合	源兵衛川生き物調べ、トークライブ	源兵衛川、レストランJun	120
			境川・清住緑地	境川・清住緑地ワンデイチャレンジ	境川・清住緑地	②1
	12	日	鎮守の森探検隊	②森にすむ昆虫類の観察と川遊び	伊豆市萬城の滝	25
			小山町農村活性化	竹林伐採、竹チップつくり	足柄ふれあい公園	13
	15	金	日本ネパール文化交流(～/18)	源兵衛川ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ・三島市長表敬・小学校訪問他	三島市内、沼津市、富士山	8
	18	土	イオンチアーズ	三島梅花藻の里・源兵衛川自然観察会他	三島梅花藻の里・源兵衛川	17
	20	月	環境教育(源兵衛川)(～21)	源兵衛川出前水族館(「水遊美」イベント協力)	大社の杜みしま	350
	26	日	富士山子ども探検隊①	高指山のﾊｲｷﾝｸﾞから富士山の構造を学ぶ	山梨県山中湖村	16
	28	火	鎮守の森探検隊③④	「川の中の生き物」「野鳥と植物」	大中島会館、源兵衛川	43
8	1	土	ｷﾔﾉﾝMJﾄﾅｰﾘｻｲｸﾙ25周年ｲﾍﾞﾝﾄ	源兵衛川生き物・植物観察と一眼ﾚﾌｶﾒﾗ講座	源兵衛川第4ｿﾞｰﾝ、Via701	50
	4	火	源兵衛川生き物観察	①下流部の生き物を探してみよう	源兵衛川第7ｿﾞｰﾝ	40
	7	金	日韓青少年市民交流事業(～/13)	東日本被災地・三島市内実践地視察	石巻市、三島市	26
	8	土	富士山子ども探検隊	②青木ヶ原樹海の溶岩と動植物の生態を学ぶ	山梨県富士河口湖	35
	10	月	源兵衛川生き物観察	②中流部のGW三島既存調査地(10カ所)の調査	三島市内	3
	12	水	鎮守の森探検隊⑤	⑤源兵衛川での生き物探しと清流の保全活動	源兵衛川	44
			源兵衛川ふるさとの川づくり	源兵衛川中流部環境再生ﾜﾝﾃﾞｲﾁｬﾚﾝｼﾞ	源兵衛川第4ｿﾞｰﾝ	30
	18	火	環境教育 (源兵衛川)	三島市北高・源兵衛川ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	源兵衛川、雷井戸等	17
	20	木	三島梅花藻の里・隣接湧水地保全	三島梅花藻の里ｴｺﾛｼﾞｰｱｯﾌﾟﾜﾝﾃﾞｲﾁｬﾚﾝｼﾞ	三島梅花藻の里隣接湧水地	18
			松毛川千年の森づくり	ﾜﾝﾃﾞｲﾁｬﾚﾝｼﾞ(竹林伐採、竹チップ化)	松毛川	15
	21	土	「山」の援農活動	そばの種まき、農作業(かぼちゃ収穫、草刈等)	箱根西麓	23
			鎧坂ミニ公園・桜川川端整備作業	鎧坂ﾐﾆ公園整備作業、川端等のゴミ拾い	鎧坂ミニ公園、桜川の川端	12
	22	日	「市民普請大賞全国交流会議2015」(～23)	エクスカーション、基調講演、分科会	日本大学三島駅北口校舎他	162
	24	月	源兵衛川ふるさとの川づくり	源兵衛川下流部環境再生ﾜﾝﾃﾞｲﾁｬﾚﾝｼﾞ	源兵衛川第7ゾーン	19
9	1	火	日韓青少年市民交流事業(～/4)	江華島バイカモ視察等	韓国江華島	31
	6	日	源兵衛川ふるさとの川づくり (CSR)	せせらぎ三島ﾛｰﾀﾘｰｸﾗﾌﾞ・ちゃんかけ拾い、生き物観察	源兵衛川	20
	10	木	英国スタディツアー(～/17)	環境問題に取り組むNPO及び社会的起業の視察	英国	16
	12	土	JR東海さわやかｳｫｰｷﾝｸﾞ	街中がせせらぎ、ジオﾊﾟｰｸ、TVロケ地、ぶらり	源兵衛川第2ｿﾞｰﾝ、三島梅花藻の里	6
	19	土	鎮守の森探検隊	⑥富士五湖のほとりで湿原の動植物観察	富士宮市小田貫湿原・田貫湖	19
	20	日	第16回心を元気にするｼｮｰﾄﾂｱｰ(～22)	郷土芸能交流、富士登山体験、生き物観察	三嶋大社、富士山、源兵衛川	34
	26	土	源兵衛川ふるさとの川づくり	三島中央病院、生き物観察、ちゃんかけ拾い	源兵衛川中流部	20
	27	日	腰切不動尊例祭	祠の清掃、読経	腰切不動尊	8

環境出前講座：西幼稚園(10)、坂幼稚園(18)、旭ヶ丘幼稚園(19)、南幼稚園(75)、沢地幼稚園(28)、東小学校(65+65)、南小学校(90)、徳倉小学校(60+60)、北上小学校(60+55)、西小学校(80+80)、錦田小学校(102+102)、向山小学校(114+114)、清水特別支援学校(41)、三島北高(109+17)、三島長陵高校(16)、三島市教職員初任者研修(21)　合計23回1,401人

〈定例作業〉★三島梅花藻の里 17回　★源兵衛川を愛する会 3回　★鏡池ミニ公園 3回　★境川・清住緑地愛護会 5回
★宮さんの川 毎日　★桜川 4回　★雷井戸 14回　★沢地グローバルガーデン 10回
★せせらぎシニア元気工房 毎週火曜

〈定例会議〉★インストラクター会議 3回　★編集会議 10回　〈委託事業〉★三島市フリーマーケット 3回

せせらぎ三島ロータリークラブ、今年も源兵衛川で現場体験

9月6日、せせらぎ三島ロータリークラブ（鈴木政則会長）の方々が、ご家族と源兵衛川で、ちゃんかけ拾い、外来植物の除去作業、生き物観察等を体験。昨年から新旧の担当者が連携して活動を継続。「また来たい」とは参加した子供の声！

トヨタ自動車労働組合 源兵衛川で遊ぼう！

7月5日大雨の中を、子供連れの家族が続々と、会場のレストラン・ｊｕｎに集合した。午前は『源兵衛川トーク』（渡辺豊博ＧＷ三島専務理事）、『命と自然トークライブ』（アウトドア派タレントの鉄﨑幹人さん）があり、観察水槽に入れた生き物の展示やクイズもあった。

午後は雨天だったが希望が多く、源兵衛川の水辺散策と第7ゾーンで生き物調べを行い親子で楽しんだ。着替えのために会場に戻り、解散時には、ＧＷ三島の畑で収穫した野菜の販売を行い、大変喜ばれた。

天候不順にもかかわらず、予定どおり実施出来た。

視察来訪者記録 H27.6.1～H27.9.30

月	日	団体名	人数	地域
6	26	茂原市土地改良事業推進協議会	20	千葉
7	2	日本大学国際関係学部	26	静岡
	5	ﾄﾖﾀ自動車労働組合「源兵衛川であそぼ！」	120	全国
	10	善行雑学大学	43	神奈川
	15	日本ﾈﾊﾟｰﾙ文化交流日本訪問団	8	海外
	18	イオンチアーズ	23	静岡
8	13	日韓青少年交流訪日団	26	韓国
	20	ふるさと上谷沼地域創造塾	5	埼玉
9	8	クラブツーリズム	82	東京
	6	三島ロータリークラブ	20	静岡
	8	クラブツーリズム	82	東京
	9	東京大学大学院 小泉研究室	7	東京
	17	中央大学 サマースクール	9	東京

ＧＷ三島事務局の新スタッフ

澤目（さわめ） 純一（じゅんいち）さん
（静岡県函南町出身）

三島市地域人づくり事業「湧水地調査」

8月10、13日、既存調査地の11カ所を実施。新規を含めた個人調査地は未定。昭和58年に確認された150カ所の実態把握後、三島市への湧水保全条例の提出を考えている。

9月11日には、昨年度調査地(残り5カ所)の湧水調査をした。今後の新規調査地（個人の湧水地）は、市役所、自治会長との調整の上ポスティングを行っている。観光への活用も期待し、湧水観光マップを作成の予定である。

鏡池

英国GW スタディツアー

ＧＷ三島は、9月10～17日、英国ＧＷのリーダー的組織であるＧＷロンドンのプロジェクトを視察するツアーを実施。現場における問題解決力と実践力を学び、国際交流を深めた。

田舎を社会的企業タウンとして再生したアームストン・ムーアや、独自の資金確保と管理システムにより保全している世界自然遺産の湖水地方やコッツウォルズ地方なども散策し、質の高い研修となった。

小山町・足柄ふれあい農園で竹林伐採・竹チップづくり体験を実施

竹をチップにする作業

ＧＷ三島では本年度、地域人づくり事業の一環で、小山町の農村活性化センター等の利用促進や魅力アップを目的とした活動を行っている。

都市と農村とが交流する場として、市民農園「足柄ふれあい農園」が開設され、利用者によって様々な野菜が栽培されている。

一方、鮎沢川沿いには荒廃した竹林が広がり、農園の日照阻害や景観が損なわれつつある。

7 月 12 日、農村公園の環境改善、イベント“おやまＤＥどんぶらこ”を開催するにあたり、荒廃竹林を伐採し、竹をチップにする作業を実施した。当日は農園利用者、公園管理者、小山町役場職員、ＧＷ三島職員とが参加した。

今回できた竹チップは発酵後、農園の土壌改良材として使用する予定。また、耕作放棄地の開墾作業を行い、小山町内の学校給食に提供する玉ねぎ、そば打ち教室に使用するそば栽培を行った。

東京農工大学「地域パートナーシップ論」三島実習

■6 月 20、21 日　20 日午前：渡辺豊博ＧＷ三島専務理事による講義。午後：「平成 27 年度ＧＷ三島通常総会」「ネパール大地震支援活動報告会」に参加。

21 日午前：源兵衛川ワンデイチャレンジ。越沼正ＧＷ三島理事の指導のもと第 7 ゾーンの草刈り、加須屋真常葉大学非常勤講師による水生生物の観察会に参加。午後：三島街中カフェでディスカッション。

■7 月 4、5 日　4 日午前：渡辺豊博ＧＷ三島専務理事の講義。午後：源兵衛川の視察、松毛川の環境再生活動に取り組んだ。小畑茂雄「松毛三日月の会」副会長の説明を聞き、山竹種苗園の山田健次さんの指導で植樹。

5 日：境川・清住緑地ワンデイチャレンジ。境川・清住緑地愛護会の植野栄一さんの説明を聞き、清掃、草刈り、外来種駆除等の環境整備作業に取り組んだ。

富士山子ども探検隊

火の山・水の山・命の山、富士山の多様な魅力と不思議・感動を体験！

富士山麓にて、ハイキングや湧き水の調査などを行う全 7 回の人気のプログラム。参加者は、専門家とともに散策し、楽しみながら自然環境について学んだ。

第 1 回：7 月 26 日「富士山誕生の秘密を知ろう！高指山と山中湖ハイキング」

第 2 回：8 月 8 日「富士山の溶岩が生んだ神秘を体験！青木ケ原樹海と洞窟探検」

第 3 回：9 月 6 日「富士山の噴火の秘密を知ろう！西臼塚の噴火口周遊」

青木ケ原樹海

三島ホタルまつりに協力

6 月 13 日の「第 31 回三島ホタルまつり」の会場・楽寿園正門に、手作りの竹あかりを設置して協力。また、正門の外ではネパール大地震支援への募金も呼び掛け、協力を得た。

キヤノングループ カートリッジ回収25周年イベント in 三島

8 月 1 日、ＧＷ三島とキヤノンマーケティングジャパンは、小学生を対象に源兵衛川中流域で生き物探しと一眼レフカメラでの撮影会を行った。

小学生親子は、講師（加須屋真・常葉大学非常勤講師、菅原久夫・常葉大学非常勤講師）やＧＷ三島スタッフから、源兵衛川の説明を受け、生き物探しをした。キヤノンの社員からは、一眼レフの使い方、撮影のポイント等のアドバイスを受けた。最後に、撮影した作品を使いフィールドマップを完成して発表会を行った。また講師からは水質保全と共に水辺の環境整備の重要性なども学んだ。子供たちから「生き物を守るために源兵衛川の清掃にも参加してみたい」「生き物のすばらしい瞬間を撮影でき感動した」などの感想があった。

キヤノングループでは、1990 年よりトナーカートリッジの部品などをリユース、リサイクルする取り組みを世界 26 カ国で実施してきた。また、国内で回収したトナーカートリッジの本数に応じた金額を原資とする環境や生物多様性保全の取り組み「未来につなぐふるさとプロジェクト」を、2010 年から全国 13 地域で展開している。25 周年記念の一環として、小学生を対象に生物多様性をテーマにこのイベントをＧＷ三島と連携して行った。

ネパール大震災支援チャリティーコンサート

8 月 3 日、4 日、11 日の 3 夜、みしまプラザホテルで、ネパール大地震支援チャリティーコンサートが開催された。

ステラ・フィオーレ・アンサンブルの郷愁を誘うマンドリンの調べや、サプライズ手品と聴衆参加の歌声、コール･アンダンテの女声合唱での懐かしい歌、ボイス･オブ･インフィニティの心打たれるゴスペルを、皆で堪能することができた。

このコンサートの収益金は、3 つの主催演奏者様、みしまプラザホテル様のご厚意により、当法人のネパール大地震復興支援プロジェクト（被災地の児童を三島・富士山に招聘して心の元気を取り戻してもらう活動）に全額寄贈された。3 日と 4 日は小松幸子理事長が、11 日は渡辺豊博専務理事が、取り組みの現状を伝え、多くの方々のご協力に御礼の言葉を述べた。

三島市内の写真集

撮影者：みしま こまち
撮影場所：源兵衛川
ひとこと：三島市内の小中学校の新任教職員の方々が、源兵衛川で様々な体験をしました。ちゃんかけ拾いも、その１つ。富士山からの冷たい清流に入っての気分はいかが？

【投稿方法】撮影者の氏名、住所、電話、撮影場所、撮影年月日にひとこと添えて、Ｅメールに添付し、GW三島事務局までお寄せください。
Ｅメール：info@gwmishima.jp

ご寄付
ありがとうございます！

皆様からの募金の趣旨を生かし、大切に使わせていただきます。

＊三島梅花藻の里泉トラスト運動 2,830,441 円
＊ネパール大地震支援募金 3,465,160 円
合　計　6,295,601 円

三島市教職員初任者研修会

三島市の教職員初任者研修会が、今年も７月２日に開催された。白滝公園でＧＷ三島の取り組みや三島の湧水の仕組み等を学び、源兵衛川に移動。

源兵衛川の第７ゾーンでは、インストラクターの渡辺忍さんからタモの使い方の指導があり、専門家の加須屋真・常葉大学非常勤講師からは、参加者が捕らえた生き物についての詳しい講義があった。最後に、「生き物を川に戻すことの大切さ」を伝え、実際に川へ戻してもらった。

今年も、日本大学がフィールドワーク

ここ数年、日本大学国際関係学部の青木千賀子教授から依頼のフィールドワークが続けられている。今年も７月２日に実施。青木教授はネパールと関係が深く、今秋も、ネパール大地震支援に出掛けるとのこと。また、昨年は『ネパールの女性グループによるマクロファイナンスの活動実態』（日本評論社）を発行。この日、小松幸子理事長と越沼正理事が案内説明をし、学生たちは源兵衛川でミシマバイカモの保護活動を体験した。

参加した２～４年生は、「知らなかったことがたくさんあり、市民の努力も分かった。出会う市民もＧＷ三島の活動を理解しているようだった」「ネパールを支援していることはすごい。バイオトイレにも興味がわいた」と感想を寄せてくれた。

ネパール大地震募金活動

ＧＷ三島は、５月 30 日から６月３日の間、ネパールを訪問し、支援活動を行った。引き続き「バイオトイレ」の設置を目指し、募金・支援活動を継続していく。目標額は 1,500 万円。

恒例：クラブツーリズム株式会社内定者研修
「水と親しむ！仲間と触れ合う！ちゃんかけ拾い in 三島」

雨天の９月８日、バス２台で三島市社会福祉会館へ到着。源兵衛川講座で『「水の都・三島」再生へのアプローチ・環境資源を観光資源へ』（渡辺豊博）を学び、レインコート姿で源兵衛川等を視察。ちゃんかけ拾いやミシマバイカモの保護活動（山口東司）も実践し、雨でも濁らない源兵衛川の澄んだ湧水が、より鮮明に印象に残ったようだ。

色別の６班が体験後にまとめた三島のキャッチコピーは、

■班「自然×人×時代　つながる街・三島」（熊井陞）
■班「強くて優しい街・三島」（菅野京子・小松幸子）
■班「水ガキの街・三島」（田村和幸）
■班「気付く街・築く街・三島」（仲田芳文）
■班「水と思いが湧き出る街・三島」（渡辺忍）
■班「人と自然が共生し合う心豊かな街・三島」（秋山清子・越沼正）

フレッシュな若者の三島での研修集大成と言える。

飛び出す編集室

６月 11 日、「風土」で「彫刻家・下山舜さん（前号で取材）を囲む会」を開催した。記事の続きをお聞きし、有意義な時間を過ごさせていただいた。

下山さんからは、コンパクトにまとめられた作品集と、今年２月 22 日に三島市大社町の「えびす参道商店街」で下山さん制作の「えびすさん」の銅像の除幕式が開かれたという新聞記事をいただいた。帰路、招かれるようにこの「えびすさん」に会えて、一同幸せな気分になった。

グラウンドワーク三島編集室（編集室メンバーは 50 音順）
ボランタリーニュース 57 号の編集ほか

加藤 美穂　河田 惠美子　岸野 和子　城所 徂帝
小松 幸子　斎藤 彩子　本田 博子　前田 充子
水野 幾子　村澤 圭　山﨑 多紀子　山田 勝造

GW三島事務局 主担当：山本 実生 副担当：村上 茂之